

第31回バイオメディカル研究会

「スマートシティ構想で目指す医療、 健康長寿のための街づくり」

現在、さまざまな都市で「分野横断型スマートシティ」構想が進められている。今回のコロナ禍でも、各地方行政における都市データ整備とその活用が、感染対策や医療提供体制の維持に重要であることは明らかになっている。そこで、第31回研究会では、スマートシティ構想に焦点をあて、その取り組みと課題について共有し、さらに、構想における製薬業界が担うべき役割を通して製薬産業の今後の方向性についても議論したい。

■主催：特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会

■共催：公益財団法人都市活力研究所

■後援：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議、NPO 法人バイオグリッドセンター関西

【開催日時】2021年11月2日（火） 14:30～17:00（14：20～アクセス可能）

【開催方法】Zoom ウェビナー（参加費無料）

【プログラム】

14:30 開会挨拶

14:35 「大阪スマートヘルスシティ計画

～2025年万博に向け世界一の健康先進まちづくりが始動する！～

坪田 知巳 先生（大阪府スマートシティ戦略部 部長・CIO）

15:05 「心不全重症化予防事業による新しい保健指導の取り組みについて」

小久保 喜弘 先生（国立循環器病研究センター 健診部 特任部長）

（15分 休憩）

15:50 「柏の葉スマートシティ健康長寿・高齢者コホート研究の現状と展開」

久恒 辰博 先生（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 准教授）

16:20 「データ駆動型スマートシティにおけるデータ共有と

そのプラットフォーム：都市 OS と DATA-EX」

越塚 登 先生（東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 教授）

16:50 閉会挨拶

17:00 終了

【ご注意】

- ・参加登録された方には、前日にアクセス用 URL を記載したメールをお送りします。
- ・日本バイオインフォマティクス学会員・賛助会員の方は、お申込みの備考欄に「会員」または「賛助会員」とご記載下さい。（[賛助会員の一覧はこちら](#)）

【詳細】 <http://www.urban-ii.or.jp/>

（お申し込みは、上記リンクのイベント掲載ページよりお願いします。）

【お問合せ】 事務局 公益財団法人都市活力研究所 担当：味村

E-Mail： mimura@urban-ii.or.jp TEL: 06-6359-1322

<要旨>

「大阪スマートヘルスシティ計画 ～2025年万博に向け世界一の健康先進まちづくりが始動する！～」
大阪府スマートシティ戦略部 部長・CIO 坪田 知巳

TBD

「心不全重症化予防事業による新しい保健指導の取り組みについて」
国立循環器病研究センター 特任部長 小久保 喜弘

心不全は様々な循環器病の終末像であるにもかかわらず、地域住民を対象とした心不全の疫学研究は極めて少ない。今回、吹田市の健診で吹田研究として開発された虚血性心疾患と心房細動のリスクスコアと、NT-proBNP とを合わせた評価コメントを健診の結果票とともに返却して、健康手帳に挟んで自分の健康状況を医師などと共有できるようになった。さらに、国循で開発した生涯健康支援 10 を用いて新しい形の保健指導を行っている。この新しい保健指導は、循環器病ばかりでなくて他の様々な疾患予防として健康寿命の延伸に向けて活用している。

「柏の葉スマートシティと連携した健康長寿・高齢者コホート研究の現状と展開」
東京大学 新領域創成科学研究科 准教授 久恒 辰博

全ての世代が健やかに、安心して暮らせる「健康長寿都市」を目指して、千葉県柏市柏の葉エリアにおける柏の葉スマートシティでは、未来の課題解決型街づくりを進めています。脳の老化を含めて、動脈硬化の増悪など健康寿命を阻む体内の変化として慢性炎症の亢進があることから、生活習慣の改善などを通じて、炎症をうまく制御することができれば健康寿命を延伸できることになります。そこで、脳内に起こる炎症性応答を制御して脳の老化を回避するために、どのような食品機能性成分あるいは食生活習慣が適切であるかを調べるために、地域に居住する高齢者が参加するコホート研究を実施しています。本コホート研究ではこれまでに延べ500名以上の高齢者が参加し、健康長寿を促進するための介入試験も実施してきました。このような取り組みを通じて、健康長寿コホート研究に参加することで自然と健康寿命を延ばすことができる未来型街づくりの推進を進めています。本日は、これらの研究成果の一端を紹介させていただきます。

「データ駆動型スマートシティにおけるデータ共有とそのプラットフォーム：都市 OS と DATA-EX」
東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 教授 越塚 登

スマートシティは、IoT や AI などの代表される先端のデジタル技術等を活用しながら、生活者のウェルネス向上や地域経済活性化を目指す取組である。

我が国では歴史的にも長くスマートシティと呼べる取組を行ってきており、現在も多くの都市サービスがデジタルプラットフォーム上に提供されている。

今後は、きちんとしたアーキテクチャに基づき、クオリティーの高い都市サービスを低コストで実現し、スマートシティのビジネスモデルを確立することが重要である。

そのための鍵となりものが、スマートシティのデジタルプラットフォームである

都市 OS である。そして、いたるところにある都市データを発掘連携して、多様な都市サービスで利用し、都市全体の最適化や都市のダイバーシティに寄与することが求められている。

最後に、そうしたデータ連携の基盤となるプラットフォームの実例として、DATA-EX を紹介する。